

# Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 第3次産業活動指数(2006年10月)

発表日2006年12月15日(金)

～前月比2%を超える大幅プラス～

第一生命経済研究所 経済調査部  
担当 エコノミスト 結城 良彦  
TEL : 03-5221-4573

(単位: %)

		第3次産業活動指数												
		前期比		前年比		電気・ガス・熱供給・水道業	情報通信業	運輸業	卸・小売業	金融・保険業	不動産業	飲食店・宿泊業	医療・福祉	サービス業
				前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比
05	1-3月	1.2	2.1	3.7	▲1.6	0.4	1.5	1.6	▲0.2	2.1	0.7	2.1		
	4-6月	0.2	1.9	▲0.9	0.9	1.2	▲0.2	▲0.5	0.9	▲0.1	▲0.1	0.3		
	7-9月	0.4	2.2	0.0	▲0.7	▲0.1	▲0.2	3.0	0.7	0.0	0.0	0.6		
	10-12月	1.1	2.6	3.6	2.1	▲0.5	1.1	4.4	1.1	0.9	0.6	▲0.2		
06	1-3月	0.3	2.0	▲0.7	▲1.3	0.6	0.6	▲1.1	▲0.7	1.2	0.9	0.6		
	4-6月	0.6	2.6	▲0.8	1.2	0.5	0.8	▲1.0	0.6	0.6	▲0.2	1.1		
	7-9月	▲0.7	0.5	▲0.6	▲2.3	0.6	▲0.9	▲2.9	0.5	0.0	0.1	0.4		
05	10月	1.0	3.2	0.4	4.6	▲0.4	1.6	1.5	0.9	0.2	0.0	0.0		
	11月	0.3	2.7	▲0.4	▲3.1	0.3	0.9	1.0	▲0.2	▲0.5	0.7	0.4		
	12月	0.0	2.2	5.3	▲0.6	0.1	0.4	1.2	0.6	1.6	1.2	▲1.2		
06	1月	1.5	2.3	▲2.6	2.9	0.2	3.1	0.0	▲0.3	▲1.0	0.7	1.9		
	2月	▲1.4	2.5	▲1.5	▲2.8	▲0.8	▲3.5	▲1.9	▲1.3	1.6	▲2.0	0.7		
	3月	▲1.1	1.2	▲0.8	▲2.3	2.3	▲1.9	▲2.9	0.0	0.6	1.8	▲2.9		
	4月	1.6	2.1	2.5	3.2	▲1.4	2.9	2.2	1.0	▲0.1	▲1.9	2.3		
	5月	0.7	3.6	▲2.5	▲0.3	1.0	0.8	▲0.5	0.1	0.4	2.6	1.6		
	6月	▲0.8	2.0	▲1.3	2.6	0.0	▲0.3	▲0.9	0.0	▲1.3	▲1.6	▲1.5		
	7月	▲0.3	2.0	▲1.6	▲2.7	▲0.5	▲0.4	▲1.1	0.1	▲0.3	0.8	1.0		
	8月	0.4	1.2	6.0	▲0.5	1.3	0.6	▲1.4	0.2	1.0	▲1.1	▲0.3		
	9月	▲1.2	1.0	▲3.6	▲2.7	▲0.3	▲0.3	▲3.1	▲0.4	0.7	1.0	0.8	0.0	
	10月	2.1	2.0	4.0	10.0	▲0.4	3.1	3.2	▲0.5	▲0.4	1.2	▲0.4		

(出所) 経済産業省「第3次産業活動指数」

## ○ 第3次産業活動指数：前月比+2.1%と好調な結果

10月の第3次産業活動指数は前月比+2.1%と2ヶ月ぶりのプラスとなり、市場予想（コンセンサス：+1.3%、レンジ+0.3%～+2.1%）を大きく上回る良好な結果であった。主要11業種のうちプラスに寄与したのが情報通信業、卸売・小売業、金融・保険業、電気・ガス・熱供給・水道業、医療・福祉、複合サービス業の6業種で、マイナスに寄与したのがサービス業、不動産業、運輸業、飲食店・宿泊業、学習支援業の5業種であった。今回特に大きくプラスに貢献したのが、情報通信業（前月比寄与度+0.95ポイント）、卸売業（同+0.71ポイント）、金融業（同+0.29ポイント）といった業種である。情報通信業についてはゲームソフトなどのソフトウェアが国内・国外向け共に増加し、ソフトウェア業が上昇したほか、固定電気通信業が好調であった。また、卸売業については、企業が四半期決算に切り替えだした関係で、季節調整にずれが生じ、先月は前月比▲3.1%と大きく落ち込んでいた。今月はその反動もあり大きく反発している。金融業については10月に株取引が多かったこともあり、証券業が好調であった。

なお、今回プラス寄与の大きかった固定電気通信業（前月比寄与度+0.62ポイント）については、データに推計が多く含まれることもあり、来月下方修正される可能性もあることには注意が必要である。

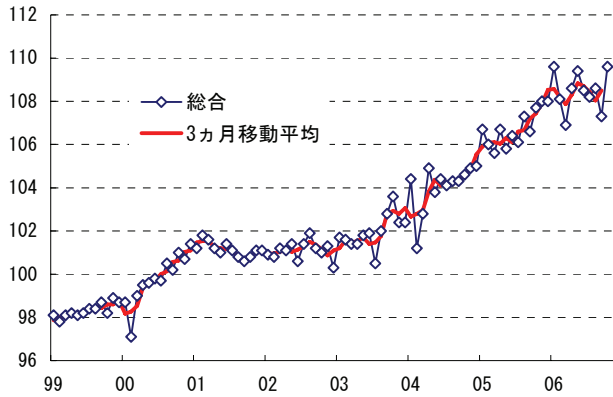
## ○ 10-12月期の消費に注目

第3次産業活動指数は前月比2%を超える良好な結果であった。前月比2%を超えるのは2004年4月以来のことである。7-9月期対比でも+1.5%となっており、7-9月期に8四半期ぶりにマイナス成長となったものの、10-12月期については再びプラス成長が期待できそうだ。

ただ一方で、小売業が前月比+0.2%と小幅な伸びにとどまっているほか、対個人サービス業が同▲3.9%と落ち込んでおり、小売やサービスといった消費関連で弱さが見られるのは気になるところでもある。7-

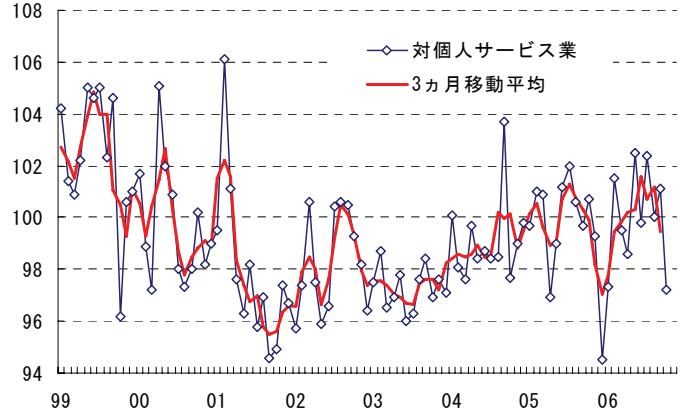
9月までは天候不順により消費が押し下げられていたが、10月以降、天候が回復した後も消費に目立った回復はみられない。この背景には、景気の回復に比べて賃金の回復が遅れていることが影響している可能性もある。毎月勤労統計をみても、10月の所定内給与は前年比で横ばいと伸び悩んでいる。もっとも、今後賃金の伸びは緩やかな回復が見込まれることや、冬のボーナスについても前年比プラスになったとみられることから、消費は今後徐々に持ち直してくると考えられる。10-12月期以降の消費の回復による第3次産業活動指数の押し上げに注目したい。

第3次産業活動指数（季調値）



(出所) 経済産業省「第3次産業活動指数」

第3次産業活動指数：対個人サービス業（季調値）



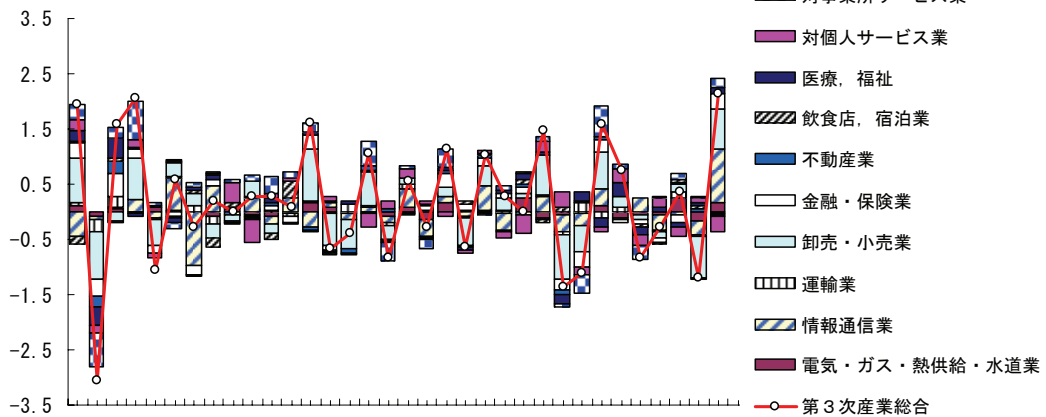
(出所) 経済産業省「第3次産業活動指数」

### ○ 全産業活動指数も大きなプラスを予測

今回の結果により、10月の全産業活動指数を予測すると、前月比+1.6%（前年同月比+2.6%）となる。今回第3次産業活動指数が予想以上に堅調に推移したことに加え、10月の鉱工業生産指数も前月比+1.6%と良好な結果であった。そのため、全産業活動指数は前月比1%を越える大きな伸びが期待できよう。

先行きについても、第3次産業活動指数が引き続き底堅く推移すると見込まれることに加え、鉱工業生産指数もITセクターの在庫調整が軽微なものにとどまるとみられることから、調整局面に入る可能性は小さいと考えられる。そのため、全産業活動指数は今後も回復基調を維持していくとみられる。

第3次産業活動指数前月比寄与度分解



(出所) 経済産業省

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。